

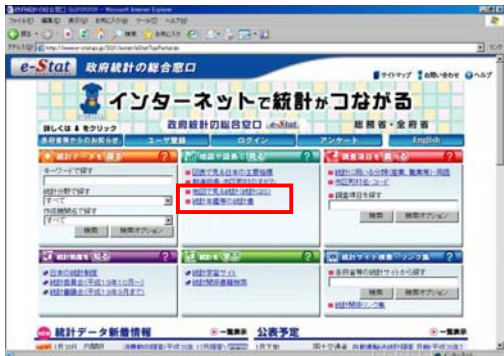
統計トピック

地図でみる統計（統計GIS）について（その1）

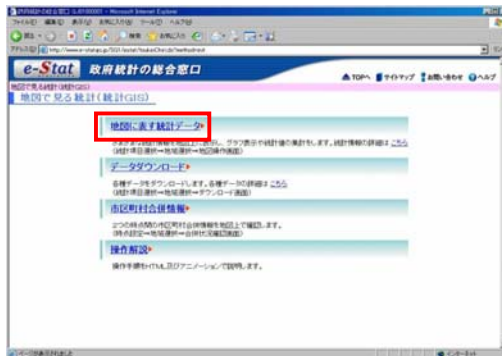
総務省統計局では、政府全体の取組である地理情報システム（GIS）（注）整備の一環として、国勢調査や事業所・企業統計調査等の各種統計調査データを地図上に表示し、統計値を視覚的に把握できる「地図で見る統計（統計GIS）」を、「e-stat 政府統計の総合窓口」（<http://www.e-stat.go.jp/>）において公開しています。統計トピックでは2回シリーズで、「地図で見る統計」を利用してできることや、京都市域を例にした具体的な利用方法について簡単に紹介します。

「地図で見る統計（統計GIS）」操作イメージ

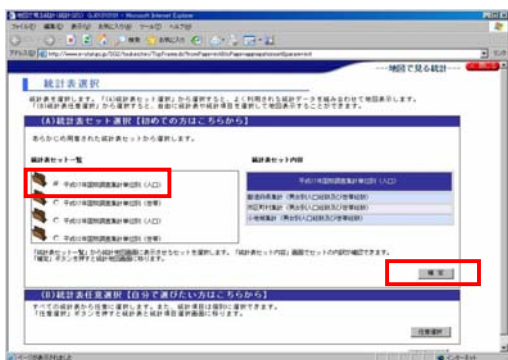
① 「政府統計の総合窓口」（<http://www.e-stat.go.jp/>）から「地図でみる統計（統計GIS）」を開きます。



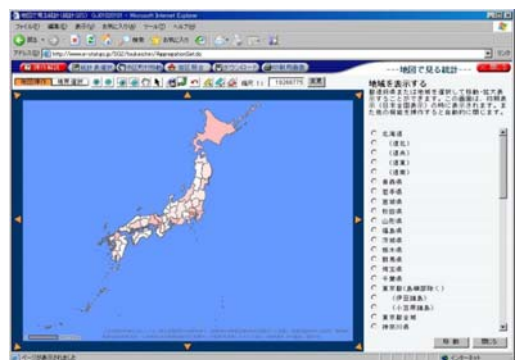
② 「地図に表す統計データ」を選択します。



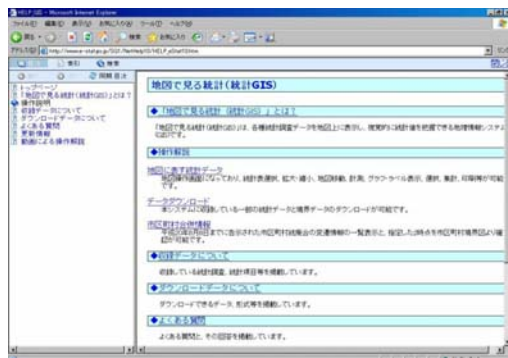
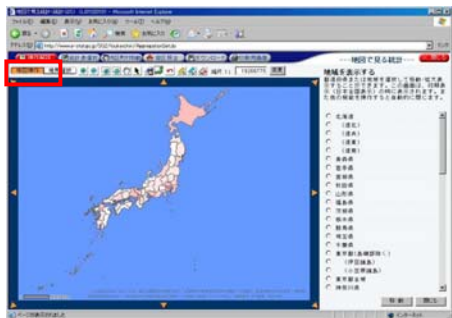
③ 統計セット一覧から統計項目を選択し、「確定」をクリックします。



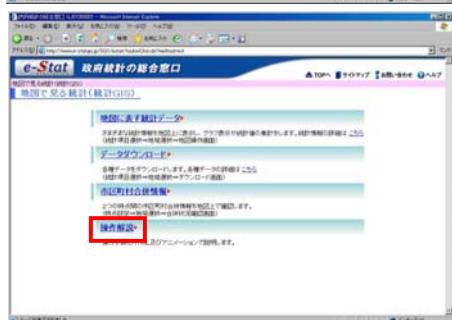
④ 操作画面が表示されます。



「地図で見る統計」においては、基本的には、画面上に表示された地図上でクリックやドラッグをするだけで様々なデータを表示することができます。詳しい操作方法については、操作画面上や「地図で見る統計」トップページからリンクしている「操作解説」に掲載されています。



操作解説画面



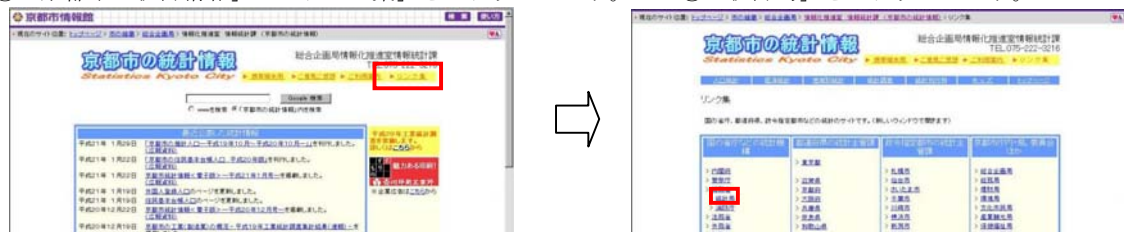
(注)

地理情報システム (GIS) とは、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ (空間データ) を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術のことをいいます (参照: 国土院ホームページ)。日本では昭和50年代から一部の政府機関、地方公共団体等において導入されてきましたが、平成7年の阪神・淡路大震災において、関係機関が保有していた情報を効率的に活かすシステムがなかったことへの反省として、政府におけるGISに関する本格的な取組が始まりました。政府における取組全般については、GISポータルサイト (<http://www.gis.go.jp/contents/government/activity/organization.html>) において紹介されています。

(参考)

「政府統計の総合窓口」へは、京都市情報統計課ホームページ「京都市の統計情報」からアクセスすることもできます。

- ① 「京都市の統計情報」の「リンク集」をクリックします。 ② 「統計局」をクリックします。

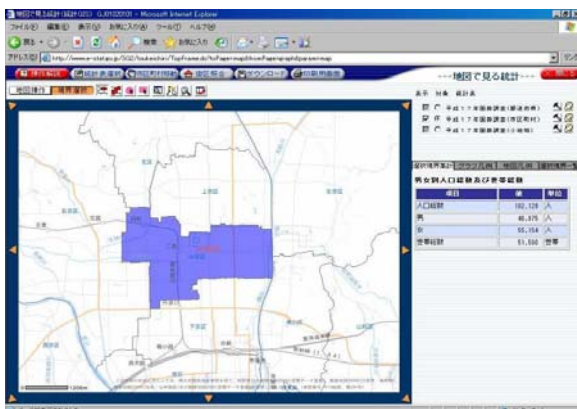


- ③ 「e-stat 政府統計の総合窓口」をクリックします。 ④ 「政府統計の総合窓口」にアクセスできます。

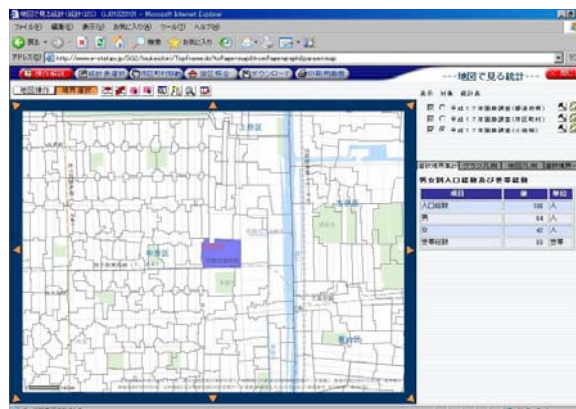


「操作解説」でも紹介されていますが、「地図で見る統計」を用いることにより、都道府県や市区町村、町丁字単位の統計情報を視覚的に表示することができます。(例1, 2)

(例1) 中京区の人口総数, 男女別人口, 世帯総数表示画面



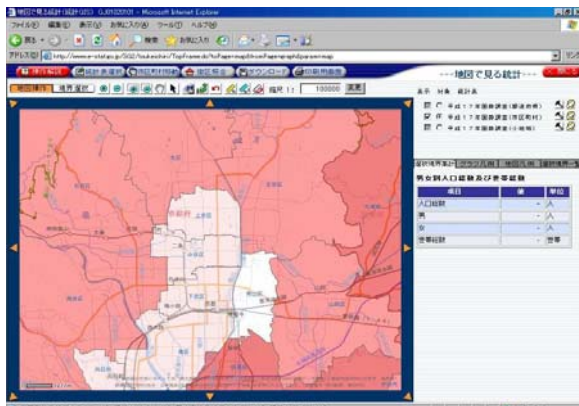
(例2) 中京区上本能寺前町の人口総数, 男女別人口, 世帯総数表示画面



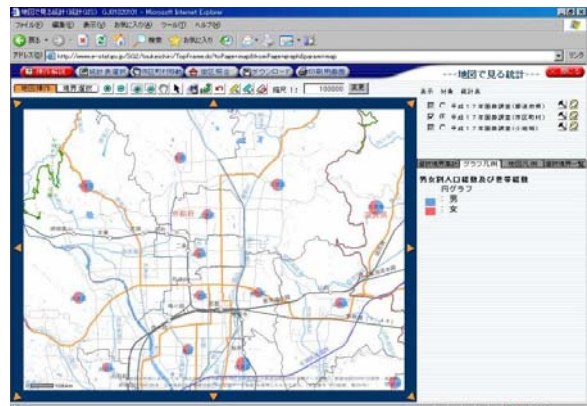
統計トピック

また、統計値に基づいて行政区分ごとに色分けしたり、グラフを表示したりすることもできます。(例3, 4)

(例3) 京都市各行政区の人口による色分け

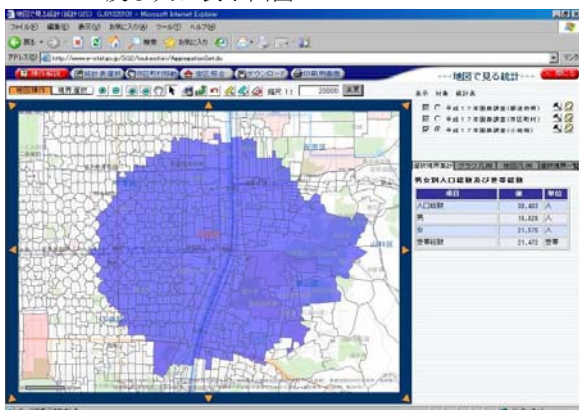


(例4) 京都市各行政区の男女比円グラフの表示

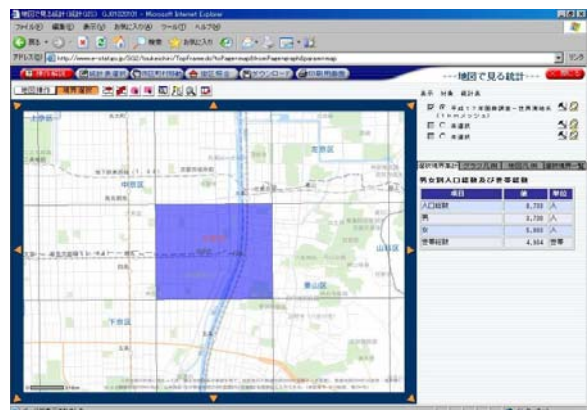


ある地点から一定距離以内の範囲を選択し、その範囲内の人口や世帯数を表示することもできます。また、国土を緯度・経度で方形の小地域区画に細分し、この区画に統計調査の結果を対応させて編集された「1kmメッシュ統計」の結果について表示することもできます。(例5, 6)

(例5) 四条河原町交差点から半径1000m以内の領域及び人口表示画面

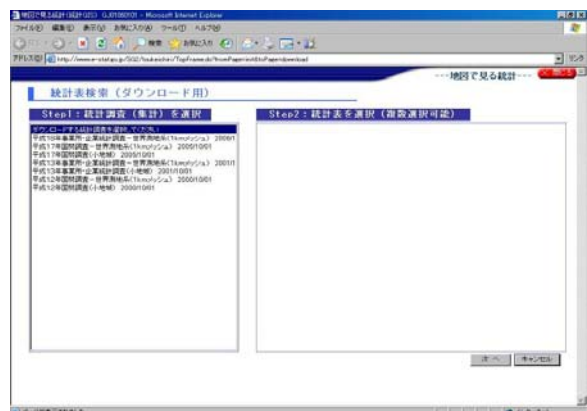
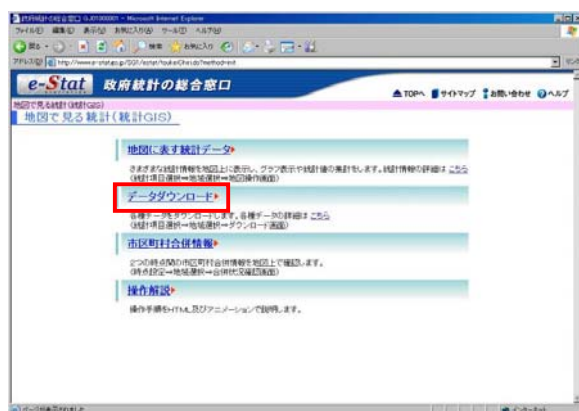


(例6) 四条河原町付近の1kmメッシュ統計の表示画面



「地図で見る統計」からは、この統計GISに用いられている統計データ及び境界データの一部をダウンロードすることができます。(例7)

(例7) 「地図で見る統計」から「データダウンロード」画面を表示



来月の統計トピックでは、操作例として統計GIS上で国勢統計区の範囲、男女別人口及び世帯数を表示するための方法を紹介いたします。